

令和9年度（2027年度）末に

めざす状態

（施策目標）

まちへの愛着・共感が広がり、地域を推奨する意欲や地域のために行動する意欲が増えている

施策の主な方向性

(1) 情報発信による開かれた市政運営

市政情報や地域情報を発信・共有し、市政や地域への理解と関心を高めることで、市民等にまちづくりへの積極的な参加を促します。

(3) 「暮らす価値があるまち」としての都市ブランド構築

多様な主体と生駒の魅力を創出・発信することで、その価値が継続的・複合的に人々に浸透する機会を増やし、「暮らす価値のあるまち」として選ばれる都市ブランド構築を目指します。

(2) 広聴活動の充実

多様な主体の意見を聴く機会や手段を充実し、市民ニーズを把握するとともに政策形成や事務・サービスの改善に反映します。

(4) 市域への来訪者誘引

市域への来訪者を誘引し、地域イメージの向上や関係性の構築に向けた効果的なプロモーションを実施します。

現状と課題

現状（取組成果）

- 多様な広報媒体による情報発信と共有を通じて行政活動を可視化する他、地域への興味・関心を高め、行政・地域・市民相互のより良い関係づくりをサポートしています。
- いこまち宣伝部やプロモーションサイト「グッドサイクルいこま」など地域との関わりをデザインして、地域の協力者を増やしています。

主な課題

- 多様な主体とのコミュニケーションを充実させ、行政運営に反映させたり、市民参画につなげたりすることが必要です。
- 「住む」「働く」「楽しむ」が満たされるまちへと転換する時期にあることを伝え、その方向性に共感してもらうことが必要です。
- 機能的な価値にとどまらず心理的な価値を軸にした情報編集によって、都市イメージをより豊かに発展させることが必要です。
- 大阪都心部や奈良市からのアクセスの良さを活かし、市外からの来訪者を誘引するプロモーションが必要です。

参考資料

■ 関連する主な分野別計画

※1 シビックプライド：